

女性の政治参画につながる主権者教育

～教育から始まる男女共同参画～

KOMON

大澤浩子(さいたま市) 大野伸恵(横瀬町) 神尾英美(戸田市)

野本怜子(さいたま市) 松川武美(八潮市)

1. 調査研究の背景

私達は現在の日本を取り巻く二つの社会的課題である「若者の低投票率」と「女性の政治参画の低さ」に危機感を覚え、若者を育てている教育現場、先駆者である女性政治家にインタビューを行い解決策を探った。

2019年夏の参議院議員選挙では、60歳代の投票率が63.58%で約1014万人が投票した一方、20歳代は30.96%で約378万人しか意思を表していない。18、19歳も32.28%の低投票率で、若者の意見は埋没していく一方だ。また、平成30年5月に「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」が制定され、男女の候補者数を均等とするよう努力すべきとなったものの、埼玉県市町村議会の女性議員比率は法律制定後の選挙でも20%前後と変わってはいない。二つの事象は共に「主権者意識が低い」結果の出口部分であり、重要なのは、入口部分となる若者もしくは女性達がどのような環境でどのような教育を受けてきたかである。私達はその鍵となる主権者教育に着目した。

主権者教育とは、国や社会の問題を自分の問題として捉え、自ら判断し行動していく主権者像を育む教育のことで、学習指導要領改訂で小学校では2020年度、中学校では2021年度から全面的に実施される。高校では「公共」という科目が新設された。

2. 教育現場へのインタビュー

さいたま市

① さいたま市教育委員会 (2019.11.27 市役所にて)
特徴*小、中、高それぞれの発達段階に合わせた主権者教育を行い18歳までに主権者意識を醸成していく
*社会科だけではなく道徳科や家庭科など他教科でも取り入れ教科横断的に行っている

② さいたま市立大宮北高等学校 (2019.12.10 視察)
校長、教頭、社会科教員3名、男子生徒2名に模擬投票について話を伺う。

授業内容「2019年夏の参議院議員選挙における実際の政党マニフェストを用い、選管から本物の投票箱、投票用紙を借りて模擬投票を行う」
市立高校4校の輪番で模擬投票を行っており、在学中に一度は体験する。

先生方からの意見*体験は0か1かで言えば大きい。いいきっかけにはなるが政治について生徒どうしが話すようになるかと言えばそこまではいかない。*自治意識を高めるために生徒会活動をもっと有効に利用したらいい。*政治が遠い。高校生議会等で現職議員と話し合える場があれば良い。

生徒からの意見*パリティ法については男女問わず良い人を選びたいのであまり何とも思わない。*学校へのエアコン設置や消費税など自分達の生活に関わりの深い政策には関心がある。*校則ももっと自分達で決めたいし、自分達の社会は自分達で変えられると思う。

③ さいたま市立大谷場中学校 (2019.12.17 視察)

さいたま市南区のモデル校である。校長、教頭、社会科教員に先進的モデル授業について話を伺う。

授業内容『『日本とEUのEPAの是非について』を論題としたディベート活動』(公民的分野)

対象 中1 **授業時間数** 7時間

目指すべき力は①資料から調査、発表する論理的思考力②ディベートというゲーム的学習で相手の主張に耳を傾ける多角的考察力、公正な判断力③グローバル化した社会の中で日本の未来を考える合意形成力、意思決定力である。

先生方からの意見*興味関心に男女差は感じない。家庭環境に因るところが大きいのではないかと。*自分達が行動することで何かが変わったという実体験ができれば良い。*今の教育を受けた彼らは投票に行ってくれると思う。

他のモデル校では「もし自分がイギリスやフランスの近代革命時に生きている市民だったら、どのようなことを政府に要求するか(歴史的分野)」や「身近な地域についてフィールドワークや聞き取り調査をし、地域の課題を話し合う(地理的分野)」等の授業が行われていた。いずれも体験や話し合いから自分で考えることに重きが置かれ、模擬選挙や模擬議会だけが主権者教育ではないことがわかる。

戸田市

インタビュー

2019.12.16 戸田市教育委員会教育政策室

2019.12.21 戸田市立喜沢中学校

戸田市では、子供達が主体的に仲間と協力しながら課題解決に取り組む学習プログラム「戸田型PBL」を実践してい

る。ある小学校の取り組みでは、総合学習の時間にグループごとに地域に出て市民ヘインタビューを行う。そのなかで社会課題を見つけ、解決策を考え発表、友達や保護者など第三者の批評を受け改善していく体験型学習を取り入れた授業を行っている。その発表の場の一つとして年に1回実施されるプレゼンテーション大会では、市内の小中学校から様々なアイデアが詰まった提案が披露される。

2018年度のテーマ「市長になったら」で「投票率の向上」を取り上げ優勝した喜沢中学校では「市長になったら」を夏休みの社会科の宿題に出し、その中から選抜された生徒のプレゼンテーションをブラッシュアップして発表に臨んだ。20代の先生方へのインタビュー結果をヒントに、投票率アップには関心を高めることが必要と仮定し、政治家と若者が対話出来る場の提供や投票証明書の活用事案など具体的な提案が盛り込まれた発表となった。

通常の社会の授業では、教科書の単元「市長選挙に立候補しよう」を利用したグループワークを行った。班を市長室に見立て、タブレットを使い他の自治体の予算も参考にしながら20億という予算内で政策を作り発表する。グループワークの前後に「市長になったら」という同じ課題に取り組みさせたところ、グループワーク終了後はより実効性が高く内容の濃いものとなっており、市政を身近に感じる効果があると考えられる。

政治分野における男女共同参画推進法については、指導要領に記載がなく時事問題として少し触れた程度だったが、子供達は男女の違いで意識や行動を縛られることが少なく保護者世代よりもジェンダーフリーに過ごせているようである。

3. 女性議員へのインタビュー

2019.11.20 和光市議会議員 2名

2019.11.21 さいたま市議会議員 2名

2019.11.22 八潮市議会議員 1名

2019.11.26 羽生市議会議員 1名

2019.11.27 八潮市議会議員 戸田市議会議員 各1名

2019.12.7 横瀬町議会議員 1名

質問①主権者教育が高校で実施されるようになったことで政治活動がやりやすくなったか？

はい 3名 *子供の同級生が議員の仕事に興味を持ってくれた *制度として出来たので取り組みやすくなった

いいえ 5名 *授業時間が少なく成果を感じない *主権者教育自体が周知不足

無回答 1名 *議員になりたてで比較ができない

質問②主権者教育をより良いものにするためには？

*現職議員を招いて模擬投票をする *授業時間を増やす *地域や大人を巻き込めるような取り組み *中学生の職業体験やインターンシップ制度で議員の仕事を経験する

*NIE (News in Education = 教育現場での新聞活用) など多様な教材を取り入れる *多様性を認められる授業 **質問③**投票率を上げるためにはどのような制度や取り組みがあればよいか？

*投票した人に特典(スイーツ交換券など) *投票しなかった人にペナルティーを課す *家庭で選挙について子供と話し合う *子供と一緒に投票所に行く *大人から子供まで誰でも気軽に参加できる主権者教育プログラム 課題はあるが、女性議員も主権者教育には期待を持っていることが分かった。

4. 見えてきた課題

*教育基本法改正によりプログラミングや英語教育が重視され、主権者教育に割ける時間が限られている。

*先進地域で主権者意識を持つ若年層の育成は進んでいるが、政治、投票につなげる何かがまだ足りてない。学校だけではなく家庭や地域の役割も求められている。

*自治体や学校によって取り組みに差がある。共通のプログラムが必要ではないか。

*親世代の意識を変える場が足りない。

5. まとめ

これは、ある地域で実際にあった話である。子供を地域の担い手と考え、地域の将来について話し合う場に子供達にも参加してもらった時、大人達が子供を前にすると非常識なこと、自分勝手な意見を言わなくなり、未来志向の議論をするようになったそうだ。私たちはリーダーとして、主権者意識を持った子供達を活かさなければならぬ。大人と地域について一緒に考える機会を作ること、主権者としての子供の意見を取り入れる社会を目指すこと、そのために「議員の仕事の体験」「子ども議会」「選挙カフェ」などのイベントを開催し、地域や行政、学校現場へ働きかける必要がある。パブリックコメント、審議会委員への応募、議会傍聴などの機会を捉え声を上げていく。

女性の政治参画についても、訪れた学校現場で印象的だったのは、子供達の間ではジェンダーギャップは感じないという声だった。主権は全ての人にあると学ぶことにより「女性だから」といった自己肯定感の低さが是正され、実の伴った男女共同参画社会が実現されることを期待する。

埼玉大学社会調査研究センターによるさいたま市民対象の2019年政治選挙意識調査では、「学生時代に経験した選挙に関する授業・行事で印象に残っているもの」という問いに対し「学校の授業」と回答した18歳~29歳は29%に対し他の年代は10%代であった。主権者教育の成果は確実に現れてきている。私たちは、日本社会を今より0.1ミリでも良い方向に進ませて次世代に引き継いでいきたい。そして、子供達が主権者教育という水を与えられ、未来は自分達のものとして学べば、その若葉は社会の土壌自体を変化させ、私たち大人の環境も変化させるにちがいない。